

令和元年度 射水みなとまちづくり戦略会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和2年1月28日(火) 午後3時～午後4時40分
 - 2 開催場所 射水市役所 会議室 303,304
 - 3 出席者
 - (1) 委員等
岡本委員長、春日委員、笹林委員、砂原委員、竹内委員、本郷委員、松田委員、
鷺北委員
西本 新湊漁協参事（尾山委員の代理出席）
田仲 射水青年会議所副理事長（米田委員の代理出席）
 - (2) アドバイザー
白井 北陸地方整備局伏木富山港湾事務所副所長（宮丸アドバイザーの代理出席）
高嶋 富山県地域振興・中山間対策室主任（牧野アドバイザーの代理出席）
三鍋 富山県港湾課主幹（上野アドバイザーの代理出席）
 - (3) 事務局
産業経済部長、産業経済部次長、港湾・観光課長、政策推進課長、都市計画課長、
港湾・観光課長補佐、港湾・観光課みなとまちづくり係長、同主任
 - 4 欠席者 高野委員、松原委員、館アドバイザー
 - 5 傍聴者等 なし
-

会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 射水みなとまちづくり方策の進捗状況について
 - (2) 射水みなとまちづくり方策の改訂について
- 4 閉 会

<会議資料>

- 資料1 射水みなとまちづくり方策の進捗状況及び今後の予定
- 資料2 射水みなとまちづくり方策の進捗状況及び今後の予定・補足資料
- 資料3 射水みなとまちづくり方策(改訂案)
- 資料4 「射水みなとまちづくり方策」改訂案の概要について
- 資料5 射水みなとまちづくり方策改訂案について事前に委員からいただいたご意見
- 資料6 射水みなとまちづくり方策 現行・改訂案対照表
- 参 考 射水みなとまちづくり戦略会議 委員名簿

議事要旨

◎事務局から資料説明ののち、協議事項 1 及び協議事項 2 を一括して協議

(委員)

新湊マリーナには、なぜFree Wi-Fi がないのか。東地区の集客に必要ではないかと考える。また、サイクリングの方に県営渡船の利用をPR することで、インスタ映えのスポットとして話題になるのではないかと考えている。

本江地区や富山市四方地区には住宅団地があり、今後は足洗老人福祉センター跡地に温泉施設がオープンするので、人の動線も変わってくるだろう。高齢者の移動手段の確保も必要である。新湊地区まちづくり協議会では、観光アプリについて検討しているが、検討中の電動カート、電車、コミュニティバスやレンタサイクルといった交通機関との連携を図るMaaS¹の導入を考えるべきと思っている。そして、将来を見越して、交通機関とライトレールとの接続を検討するべきだと思っている。

方策の改訂案はこれでよいと思うが、市域の東側から内川周辺への人の流れができるようにこれからも考えてほしい。

(委員長)

MaaS については、これから富山市内で実証運用が行われるが、将来的に射水市も参加できないものかなと私も思っている。ライトレールへの接続に関しては、委員から事前にいただいた意見にもあったが、市はどのように考えているか。

(事務局)

市としても東側から人を呼び込む視点は重要だと考えるが、現状では、コミュニティバス(海王丸パーク・ライトレール接続線)の利用者は減少傾向にある。委員のこのような視点は大事だとは思いますが、将来的な市全体のまちづくりの観点も踏まえた上で、検討されていくべきと考える。

IMIZU FREE Wi-Fi については、市の公共施設もしくは公共的施設を優先して整備したが、民間の店舗等でのFREE Wi-Fi 設置に対する支援については、今後検討していきたい。

(委員)

内川周辺では空き家ができて、出店があり、空き家が埋まる状況になってきた。しかし、出店後に利益を出だせなくて続けられなくなることを心配している。いまはその厳しい境目の時期に来ている。もう一息のところまで来ているので、この時期に何ができるのかを考えている。市にもイベントへの更なる支援などの協力をお願いしたい。

これまでも新湊TMO構想²など色々な計画があったが、市には重点を絞って、タイミングを見極めて進めてほしい。

¹ “Mobility as a Service”の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念

² TMOとは、タウンマネージメント機関のこと。構想は平成 15 年に当時の新湊商工会議所が策定

(委員長)

内川周辺では、空き家の供給が追い付かない状況にあるとのことであったが、飲食店を開業する場合には、建物にかなり手を入れないといけないということでマッチングの問題もあると聞いている。行政のスタートアップ支援にはどのようなものがあるのか。

(事務局)

市では、改装などにも使える補助金(「創業支援事業補助金」、補助率:対象事業費の2分の1、補助限度額 50 万円)を設けている。また、今年度からは、商店街での出店の補助金の限度額を130 万円に拡充した。(「商店街等新規出店支援事業補助金」、補助率:対象事業費の2分の1)

また、住宅の耐震改修への支援(「射水市木造住宅耐震改修等支援事業」、耐震改修:上限額100 万円、リフォーム:上限額 30 万円を補助)なども行っている。

(委員長)

賑わいづくりと相反することになるが、内川周辺にお住いの方々には、静かな生活を脅かされるのではないかと心配する声もあると聞いているがどうか。

(委員)

心配する声は無いことはないが、だからといってこのまま何もしないというわけにはいかない。こういときこそ、行政ではなく、民間の立場で地域のコンセンサスを図っていくべきだと私は思っている。

賑わいづくりのためには、空き家をどのように埋めるのかではなく、空き家を作らない対策が必要である。また、せっかく新しいお店ができて、人に来てもらわないといけないので、そのためのイベントを行うことが大事である。市には、これらについて組織横断的に対処してもらいたいと思っている。

(委員)

元気の森公園パークゴルフ場は、県内でも数少ない冬季間も開園している施設ということで、特に冬季間は市外からの利用者も多く、大変賑わっている。パークゴルフをする高齢者を対象に堀岡地区の空き家を貸すことはできないか。空き家対策にもこのような差別化の視点が必要ではないか。

(委員長)

それは、冬季間に高齢者の方に空き家を借りてもらうということか。

(委員)

できれば移住してもらいたい。これまでの移住支援策から視点を変えて、堀岡地区の空き家問題と堀岡地区の特性を結び付けた、高齢者を対象にした移住支援策があってもよいのではないかとということである。

(委員長)

これまでにない新しい視点だと思う。市では空き家バンクのほかにもどのような事業を行っているか。

(事務局)

直接の空き家対策ではないが、三世代同居住宅のリフォームへの支援(「射水市三世代同居住宅支援事業」、補助率:対象事業費の5分の1、補助限度額:30万円)を行っている。

(委員長)

年齢を問わず移住者がいないと空き家問題は解決しない。地域の人口をどのように増やすのかということにもつながる考え方である。

(委員)

商店街の現状についていえば、後継者がいないことが問題である。また、高齢化が進み、子や孫の世代も同居していないことから、5年・10年先には空き家が増えてくることになる。後継ぎがないのでどうしようもない状況である。

Free Wi-Fi に関しては、砺波市のチューリップ公園では、毎週休日には外国人の方の溜まり場のようにになっている。射水市でもそのようにならないか心配している。

(委員長)

Free Wi-Fi の整備については、外国人旅行者への対応における喫緊の課題なので、溜まり場になることへの心配についての対策は難しいのではないかと。

後継者問題については、将来、空き家が増えて、継続している店舗が点在するようになり、商店街がスカスカの状態になることが心配される。

本方策の改訂に当たり、盛り込むべき内容などについて、皆さんからのご意見はないか。

(委員)

射水青年会議所でもSDGsの推進に向けた取組を進めている。方策の改訂案でも、課題ごとにSDGsのロゴマークを入れて関連性を整理したとのことだが、世間では、まだまだSDGsに関する認知度が低いので、これだけでは方策がSDGsにどのように絡んでいるのか見えにくい。

(事務局)

もう少し分かりやすい記載になるよう検討したい。

(委員)

実態が伴っていないことを揶揄して「SDGsウォッシュ³」という言葉もあるので、そのようにならないように進めていただきたい。

³ 英語で「ごまかし」「粉飾」を意味する”whitewash”とSDGsを組み合わせた造語

(委員)

新湊漁協周辺では、「富山新湊漁港 かに小屋」のオープンの効果などで集客力が高まって大変賑わうようになってきているが、その効果が内川周辺まで波及していないと感じている。海王丸パークも含めて、どのような社会資本を整備して次のお客さんと呼び込むのかというビジョンをつくるための大事な時期に来ていると思う。幸いにも周囲には広い未利用地が残っているので、今後5年ぐらいのうちにしっかりと取り組まないと、お客さんに逃げられてしまうのではないかと心配している。漁港周辺の賑わいが、魚価の上昇につながっているので、この好循環を維持するためにも、今後も、漁協と周辺施設の連携を進めていきたい。

方策の改訂案のうち、「釣りを推進した賑わいづくり」という部分については、釣りのための施設を新たに整備するということなのか。現状においても、防波堤や消波ブロックの上などで釣りをしている人を多く見かけるが、漁業者の立場からすれば何らかの対策をしてもらいたい。

(事務局)

現在、富山新港の港湾区域内において、釣りをしてもよいということで開放されている区域が4か所ある。その場所において、マナーを守って釣りを楽しんでもらう文化の醸成を図っていききたいということである。将来的には、国や県に相談しながら釣り場の整備ができればよいが、いまのところは、あくまでも現状において釣りが可能な区域における取組としてご理解願いたい。

(委員)

内川にもっと親しみを感じてもらえるように、今年度から子どもを対象に内川で釣りをを行うイベントを実施している。その中で、釣りのマナーについても教えている。

方策の中に、ベイエリアや内川周辺ならではのライフスタイルの魅力を訴えるという視点があつたらよいと思う。空き家をリノベーションして移住すると、収入が少なくても、海外に行かなくても、こんなに楽しい生活ができますよということを発信できる人がもっと増えれば、現状を変えることができると思う。町屋は空き家が増えると櫛の歯が欠けるように劣化していく。二の丸町自治会から南立町自治会までの通りに住宅が23軒あるが、そのうち人が住んでいるのは2軒だけになった。夜になると本当に不気味なので、イベントなど色々な取組で元気づけていかないといけない。「まちづくりは、馬鹿者と若者とよそ者」という言葉があるが、いま内川でがんばっている方も広島からの移住者なので、みんなで力を合わせてがんばってきたいと思っている。

(委員)

旧新湊庁舎跡地に整備される公共交通ターミナルを考える上でも、新湊の最大の観光資源である内川周辺に、海王丸パークや新湊漁港周辺の賑わいを波及させることが重要であると認識しており、電動カートの運行など色々なことを新湊地区まちづくり協議会の各部会で協議している。

また、内川周辺でお店を出したいという方については、金融機関等とも連携しながら創業支援を行っているが、地域にお住まいの方に、住居の1階部分を提供してもらって、そこでお店を開くということも取り組みたいと思っている。商店街の方々と話し合っ、そういった動きを導き出せばと思っている。

また、内川周辺での事例であるが、不動産会社が仲介して空き家の売買契約が成立する寸前ま

でいったが、所有者の方が高齢のため意思が確認できなくなり、断念したということがあったと聞いている。そうなってしまえば、売りたいくても売れないという状況になるので、元気なうちに将来のことを考えてもらえるとよいとも感じている。

(委員)

空き家相談会を実施しても、反応が鈍い。それでも諦めずに続けるしかないと思っている。

(委員長)

反応が鈍いというのは、貸す側のことか。

(委員)

最初は空き家バンクももっと登録が少なかった。先ほどの話のように、気が付いたときにはどうにもならなくなるので、もっと啓発活動が必要だと思う。

(委員)

宿泊体験施設の整備に関しては、新湊マリーナのほか、今回の改訂案では、(仮称)射水市フットボールセンターの利用者を想定する内容になったが、これは、いつ頃の整備を目途とする計画なのか。

新湊マリーナについては、施設が素晴らしいということで、東京の富裕層を中心に非常に評判が良い。マンションや貸別荘があれば移住しやすいという声も聞いているので、そういった施設の整備についても検討してはどうかと思う。

市内の観光客の動向についていえば、個人客というよりは団体客が中心だが、内川だけでいえば、どちらかといえば個人客が中心である。現在、新湊地区まちづくり協議会で検討されている新たな交通システムを維持していくためにも、個人客の更なる確保が必要だろうと思う。

また、市公式Vチューバーは非常に良いと思うので、今後の取組の方向性と効果の検証方法についてどのように考えているのか伺いたい。

方策の内容は、世界で最も美しい湾クラブの富山宣言の理念とも重なる部分が多いと思うので、これからは、そういった意識を持って取組を進めていくべきだと考える。

(事務局)

宿泊体験施設については、これまでも方策に記載してきたわけだが、なかなか誘致までには至らないのが現状である。これからも、方策に記載している方向性を以って進めていくといたことをご理解願いたい。

Vチューバーについては、手元に詳細な資料がないので、後ほど担当課(未来創造課)に確認したい。

(委員)

先ほど、市補助金の話があったが、基本はやはり民間のやる気と知恵だと思う。

改訂案の表紙の海老江海浜公園の写真が寂しいのがとても気になるので改善してほしい。

(委員)

宿泊体験施設の誘致については、個人客ではなく、スポーツ合宿にターゲットを絞った施設の誘致を検討してはどうか。

(事務局)

これまでのマリンレジャーに加えて、新たにフットボールセンターの整備計画もあるので、ご意見いただいた視点も含めて誘致活動を進めてまいりたい。

また、表紙の写真については、より射水ベイエリアの魅力が発信できるようなものになるよう、検討したい。

(委員)

方策の中に、若者、とりわけ子どもたちの視線を取り入れていただきたい。昨年、射水青年会議所の主催で、(株)POTETO Media⁴の古井社長に公演してもらったが、その中で、チラシは若者が作らなければダメだという話があった。富山新港花火大会には若い人たちがたくさん集まるのに、内川にはいない。それは良さを知らないからだと思う。旧新湊市のエリアは、人口が減って高齢化が進んでいるので、若者の視点をしっかりと取り入れていくことが大切だと思う。そういった点では、Vチューバーは大変良いと思うのでどんどん進めてもらいたい。

(委員長)

もっと若い人の力を借りなければならないということだろう。

ほかにご意見がないようであれば、一通りご発言もいただいたので、ここで、アドバイザーの皆さんからご意見をお願いした。

(アドバイザー)

方策の改訂案については特に意見はないが、みなとの賑わいづくりとして、数年前からビーチフェスタを実施しているので、協力できる場所でしっかり取り組んでいきたい。

(アドバイザー)

方策の改訂案については特に意見はない。日々、地域づくり・まちづくりは奥深いと感じており、これからも連携しながら進めていきたい。

(アドバイザー)

どちらかというハード整備を受け持つ立場であるが、去年は、海王丸パークの緑のパーゴラの改修や展望広場の斜路の整備を行った。今年も、元気の森公園の休憩所の整備を行うことになっている。引き続きご協力をお願いしたい。また、不法係留対策にも河川課とともに取り組んでいる。2月の月上旬には第2回の不法係留船対策協議会を開催する。できれば今年度中に対策計画を取りまとめ、しっかりと対策に取り組んでまいりたい。

⁴ 富山市出身の古井康介氏（代表取締役社長）が設立。「政治を、わかりやすく」をモットーに活動する企業。事業内容：メディア運用、コンテンツ配信、広告代理、教育

(委員長)

本方策の改訂案について色々なご意見がいただいたが、基本的に原案のままでいくのか、修正を加えるのかを決めなくてはいけない。委員長としては、原案のままでいきたいと思うがご意見を伺いたい。

<委員からどこを修正するのか確認したいとの声>

(事務局)

大変多くのご意見をいただいたので、一度事務局で整理させていただいた上で、後日、皆様に修正箇所をお伝えし、再度、ご意見をいただいて、その内容をもって、改訂案として議会へ報告したい。したがって、スケジュールについても、先ほどの説明では4月に改訂するとしていたが、遅れることも念頭に置いて考えたい。

修正を加えるといっても、方策の基本的な方向性は変わらないので、施策や視点に関する記述を追加することが中心となる。

(委員長)

それでは、基本的には原案で決定し、部分的な修正については、後日、事務局から報告があるということで、皆さんご承知いただけるか。

<委員から意義なしの声>

(委員長)

それでは、原案のとおりとすることで決定とする。本日予定していた協議事項はすべて終了したので、進行を事務局に返します。

(事務局)

これもちまして、令和元年度 射水みなとまちづくり戦略会議を閉会します。皆様どうもありがとうございました。